

これからの介護保険制度における 通所介護事業所の機能と意義 ～関わりから生まれる有用性を考える～

北村 博

2000 年に始まった介護保険制度は、施行時からこの制度を利用する高齢者やそのサービスを提供する事業者数が年々増加し、重要な社会保障制度の一つとして定着してきた。その中で、デイサービスが求められるニーズは、介護を支える状況の変化において、幅広い機能が求められている。

一方で、1 年間の介護全体の離職率に対して、デイサービスは高い離職率となっている。デイサービスで働くスタッフは、自分たちの関わりが生み出す良い変化に対して、自分たちが行っているケアの評価を客観的に感じる機会が少なく、社会的評価を感じる事が少ないため退職に繋がっているのではないかと考えられる。

本研究では、デイサービスにおいて職員がどのような関わりを行っているか、そしてその関わりや物質的環境が利用者にとってどのような変化をおよぼしているかを明らかにする。そして、その研究結果に基づいて、デイサービスの職員自身が日頃どのような関わりを行っているのかの振り返りを行い、そこからケアの質の向上につなげる。同時に職員のやりがいやデイサービスの意義を理解することができることにより、離職率の減少につながるのではないかと考える。

第 1 章では、少子高齢化の進む中で 2000 年に始まった介護保険制度とその背景について述べ、制度が社会情勢に伴ってどのように改正を行い、今回の第 6 期介護保険事業計画は、どのような内容であるのかを述べた。

第 2 章では、介護保険制度の給付費の中におけるデイサービスの状況から、制度の改正と共に求められるサービスニーズや課題、事業所で提供されるケアの質について考えた。そして、今回の改正の中で、デイサービスはどのような役割や機能を負うべきなのかについて述べた。

第3章では、デイサービスでの関わりの中で生まれる効果についてマズローの欲求5段階説やパーソンセンタードケアを踏まえて考えた。

第4章では、調査を行い、本研究の目的は、①デイサービス職員は、どのように利用者に関わっているか、②その関わりや物質的環境を通して、利用者にとどのような変化を起こしているかを明らかにした。

第5章では、これまでの内容を踏まえて実践現場と政策についての提言を行った。